復仕し、千五百石舊の如く、御馬廻頭に任じ、後隱居して休德といひ、慶安三年歿した。

イハタヤスノブ　岩田安信　通稱内藏助。内藏助盛弘の子。慶長十九年前田利常に仕へたが、元和三年父と共に退國し、正保二年再び歸參して、父の後を襲ぐに及び千三百石を領し、御使番・御馬廻頭に任じた。後剃髮して内藏坊といひ、寛文元年歿した。

イハツキワケノミコトオンハカ　磐衝別命御墓　→ハクヒノコフン　羽咋の古墳。

イハツボヤマ　岩坪山　鳳至郡石休場の東方にある山。高さ四〇〇米。山體第三紀層。

イハデ　岩出　河北郡五ヶ庄に屬する部落。

イハデ　岩出　鳳至郡横地の内の小字。

イハデジョウ　岩出城　河北郡岩出に在つた。寶曆の調書に、この村領山に古城跡があり、さゝら堀・御厩跡・御馬場等の名を存するとある。

イハナダタキ　岩灘瀧　能美郡杖の地内で、部落から南方一二粁を隔て、杖川の上流にある。三段に折れ、高さ二〇米。

イハナミガハ　岩波川　石川郡國見・大平澤山の中から流れ出で、中戸の上にて内川と落合ふ。水程一二粁餘。

イハネシヤ　岩根社　能美郡風嵐（今白峰の内）にある。社殿は巨岩の上に建てられ、二大欅樹によつて蔽はれた狀、最も壯嚴である。現に諸册二尊及び菊理媛命を祭神とし、白山の登路に在るが、古來白山宮の攝社にも末社にも數へられぬ。

イハネジユウゾウ　岩根十藏　越前の牢人で、朝鮮流馬術の名人といはれ、三町の間を木馬によつて七回まで乘り廻したといふ。金澤の岩根馬場はこの十藏の開いた所と傳へる。十藏の高弟に小堀新十郎があり、新十郎は延寶四年に歿してゐるから、凡そその時代を察することができる。

イハネババ　岩根馬場　金澤の舊町名。岩根十藏の開いた調馬場がもと在つた所だからその名がある。今岩根町と稱する。

イハネマチ　岩根町　金澤の町名で、明治以後呼び初めたものである。古來此の附近を岩根馬場と呼んだ。

イハハラタカツラ　岩原孝貫　大聖寺藩士。通稱太郎・武左衛門。字は子貫。號は聰山。武左衛門孝裕の長子で、經を竹内世綱に學び、天保十三年藩學の會頭に任ぜられ、慶應三年十二月六十六歳を以て歿した。孝貫詩を能くしたといふが、家にその稿を傳へぬ。

イハハラヨシノリ　岩原惠規　通稱五右衛門。興力の士である。飛々羅の著者。

イハブキヤマ　岩蕗山　→ウハボケヤマ　うはぼけ山。

イハブチ　岩淵　能美郡輕海郷に屬する部落。

イハブチジョウ　岩淵城　能美郡岩淵に在つた。越登賀三州志故墟考に、この村の東山上に在つて、今城山といひ、土居等の遺狀尙存する。堡主は德田志摩であるとする。

イハフネノサキ　岩舟崎　→クロイハジマ　黑岩島。

イハマオンセン　岩間溫泉　→ヲゾウオンセン　尾添溫泉。

イハマヤ　岩間屋　金澤本行寺の上の廣場をいふ。もと本多氏下屋敷の内で、その子弟の住所に當てた所である。後に藩の用地になつた。岩間屋の名は、その地に初め藩士岩谷牛右衛門の邸があり、岩谷の訓がイハマヤであつたから起るといはれる。案ずるにイハマヤはイハガヤの訛かとも思はれる。

イハムロ　岩室　三宮古記に、岩室加賀律師道性が元亨三年十月廿三日死去したことを載せ、白山宮莊嚴講中記錄元應二年に岩室、親弟侍從公道春がある。又赤松再興記には、長祿三年十月加賀半國へ赤松衆の入部した時、富樫次郎の被官岩室が大將となつて寄せ來り合戰したとある。是等の岩室は加賀の地名から來たものと思はれるが、今明らかでない。

イハモト　岩本　能美郡山上郷に屬する部落。

イハモトイヘキヨ　岩本家淸　→ショウダユキカタ　庄田行方。

イハモトノミヤ　岩本宮　能美郡岩本に在つて岩根宮ともいひ、社殿は御座岩又は天狗壁と稱する岩石の上に立つてゐた。白山本宮四社中の一つで、白山記に、『岩本宮、第二ノ王子禪師權現、本地地藏菩薩、垂迹僧形。』また『岩本宮、寶殿拜殿講堂五間二面本地大日鎭樓水宮小社巨多也。』と見え、大永神書には、『岩根宮仁明天皇御宇嘉祥元年戊辰月日高皇產靈神。』とある。義經記に、『安宅の渡を越て根あがりの松に着給ふ。是は白山權現にほつせを手向る處也。いざや白山を拜んとて岩本の十一面觀音に御つやあり。』といふ觀音堂も、この宮に白山の本地佛を安置して居たものであらう。

イハモトノワタシ　岩本渡　→ゴザイハ　御座岩。

イハヤ　岩屋　鹿島郡能登島庄の舊邑名。天正十七年九月十三日附前田利家の嶋之内岩屋村に與へた皆濟狀がある。

イハヤノシミヅ　岩屋ノ淸水　鹿島郡藤橋の岩洞中より涌出する淸泉である。洞口三間許、その内部は稍廣い。水の深さ尺に過ぎぬが、滾々として盡きぬ。古來七尾酒の名聲を博したのは、一にこの水を以て醸した爲であるといはれる。能登名跡志に、『岩屋の水とて冷水あり。洞の内に水坪ありて、所口數百軒の酒屋共外多の民家汲むといへ共、總の水坪のかわく事なし。不思議の靈水也。其洞の有さま、松山の風情、下行水の淸き事風景たぐひなき所也。一山窕にて、洞の奥深きと見えて、鰍と云ふ魚ぬしとて多くあり。』と記する。

イハヤマタガハ　岩屋俣川　能美郡白山の南なる三ノ峰西北方の溪谷で、その水柳谷川に入り、下流牛首川に注ぐ。

イバラキコハヤト　茨木小隼人　初名宗助。實は葛野藤太夫の子で、茨木源五左衛門長好の養子になつたもの。寛永五年九月六日御小姓に召出され、新知三百石を受けたが、九年三月江戸に於いて、御小姓柳田長三郎・大窪伊織・青木主膳・吉田左門等と口論のことがあり、金澤に召還されて養父に御預となり、十年知行を召放された。

イバラキスケエモン　茨木助右衛門　父は齋藤源助で前田利家に仕へた。助右衛門初めて氏を茨木と改め、亦利家に臣事して俸二百石を受け、大坂再役に二ノ丸塀下で首一つを獲、元和三年歿した。その子孫世々藩に仕へた。

イバラキチヨウ　茨木町　金澤の町名。藩